

一般社団法人全国信用金庫協会 第147回通常総会における
御室会長の挨拶要旨

日 時：2021年2月25日（木）

13時～

場 所：信用金庫会館京橋別館

3階 大会議室

昨年の我が国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により、経済活動が大幅に制約され、景気が大きく落ち込みました。とりわけ、信用金庫の取引先である中小企業は、売上高が大きく減少し、深刻なダメージを被ることになりました。

ここにきて、わが国でもワクチンが承認され、一部で接種が始まるなど、先行きに明るい兆しはみられるものの、国内経済がコロナ以前の水準にまで回復するには、まだ長い道のりを要するものと考えられます。

信用金庫は、引き続き取引先中小企業に寄り添いながら、アフターコロナを生き抜くために、お客さまとのリレーションシップを追求し、地域に根ざした協同組織金融機関として、会員、お客さま、そして地域が抱える課題の解決に尽力し、これまで以上に地域社会全体の成長に貢献していくことが求められているものと認識しています。

こうした中で全信協は、業界の新たな3か年計画として、「しんきん『支援力の強化と変革への挑戦』3か年計画」を策定し、本年4月から開始することとしております。

本日は、この新3か年計画も踏まえながら、今後、信用金庫業界が特に重点的に取り組むべき課題について、いくつか申し述べたいと存じます。

1点目は、「取引先への支援力の強化」であります。

新型コロナウイルス発生当初は、取引先中小企業の資金繰り支援に重点を置く必要がありましたが、今後については、事業回復のための経営改善、事業承継支援を強化していく必要があります。

とりわけ、新型コロナウイルスにより、大きく落ち込んだ売上げの回復は喫緊の課題であり、信用金庫としてもビジネスマッチングなどの販路拡大支援に加え、

新商品の開発やプロモーションの支援、さらにはビジネスモデルの根本的な見直しなど、取引先中小企業の収益力の強化を図るための踏み込んだ支援を行っていく必要があります。

取引先中小企業への徹底した支援は、地域の創生、活性化につながり、結果的に信用コストを下げ、信用金庫の収益力の強化にもつながるため、取組みを一段と強化していかなければなりません。

2点目は、「デジタル化への対応」であります。

コロナ禍の中で、テレワークの普及など、人々の生活スタイルが変化するとともに、QRコード決済に代表されるキャッシュレス決済など、非対面・非接触のサービスが急速に広まっております。

また、オープンAPIを活用した非金融事業者との連携・人工知能やRPAの活用による顧客利便の向上・業務効率化の取組みは、今後も進展していくものと考えられます。

信用金庫業界といたしましては、金融業をめぐるこれらデジタル化の流れに遅れることなく、顧客ニーズに応えるための新しいサービスの可能性を追求していく必要があります。

3点目は、「ブランド力の向上」であります。

信用金庫が地域に貢献し続けていくためには、信用金庫が地域の繁栄のために欠かせないことを、若年層をはじめとする広範なお客さまに幅広く認知いただき、信用金庫の提供する様々なサービスを継続的にご利用いただくことが欠かせません。

そのため、特にインターネットやSNSといったメディアの比重をより高める形で、積極的に広報活動を展開していく必要があります。

また、最近ではSDGsにコミットする信用金庫が増加しておりますが、SDGsに掲げられた社会課題解決の目標は、信用金庫の理念や目的と親和性が高いものと考えております。

SDGsへのコミットにより社会課題の解決に取り組む信用金庫の姿を広く世の中に訴求していくことは、地域における信用金庫の存在感、ブランド力を高めることにつながるものと考えております。

以上、いろいろと申し述べましたが、全信協といたしましては、信金中央金庫、地区協会をはじめとする業界関連組織との連携を一段と強化し、会員信用金庫のご期待にお応えできるよう努力してまいり所存でございます。

引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。

以 上